

平成 30 年度の活動と解説のあらまし（西村芳将）

2019 年 3 月 9 日

鳥取市歴史博物館

- (1) 解説した分量 昭和 22 年 5 月から昭和 23 年 2 月まで 10 ヶ月分（A4 約 75 ページ分）
- (2) 回数・参加者数 全 10 回 131 名（地元の方、元高校教員、大学研究者、現役高校生 3 名含む）
- (3) 主な解説内容（関連資料調査の成果も含む）

- A) 主なトピックは、22 年 4 月の県知事・市町村長・県会議員選挙の監視、闇市や列車内の闇取引の取締り、新制中学の発足と教科書の配布状況、密行取り締まりの強化、供出米の絶対確保運動、鳥取刑務所の超過収容状況、天皇行幸への対応など。
- B) 公民教育の一環として軍政部の提案により 22 年 9 月 8 日から 11 日かけて鳥取市内で「少年少女週間」（中学生市長議員の模擬選挙）が行われた。すべての旧制中学に選挙管理委員会が設けられ、男女 7 名の「市長」候補者による街頭演説が実施され、「市会議員」36 名（立候補者は 64 名）も選出された。全国初の試みとして、軍政部はこの活動を高く評価した。
- C) 22 年 11 月 27 日の天皇行幸の奉迎場（公設グラウンド、現：県立博物館敷地）の清掃活動に、鳥取市内の小学生数百名が動員されたところ、GHQ 軍政部は、教育目的以外の児童の労働力の不当な利用だとして、これを中止した。
- D) 鳥取軍政部教育情報担当将校の James.K. Arima 氏（日系 2 世）は、昭和 22 年 8 月 15 日に旧岩倉兵営内のパンジャブ部隊の教会で、米子カトリック教会の牧師により、岡山合同新聞社女性記者と結婚式を挙げ、その後仁風閣で披露宴を催した。（日本海新聞、合同新聞）
- E) 昭和 21 年 5 月鳥取に駐屯したインド第 1 パンジャブ連隊第 5 大隊は、同 12 月から翌 22 年 1 月まで臨時任務として皇居前の警備を担当した。8 月 15 日にインドが独立し英連邦軍から離脱すると 8 月 30 日に広島県呉から帰国した。（BCON 英連邦軍新聞 1947 年 8 月 28 日付）
- F) 長教授による米国メリーランド大学プランゲ文庫調査により、鳥取県衛生部作成のポスター「県下一斉に鼠をとろう」（昭和 23 年頃）の画像を入手した。

（参考）平成 31 年度の開催予定

- (1)日時 毎月第 3 土曜日 午後 2 時から 4 時半まで ※第 1 回は 4 月 20 日（土）
- (2)会場 鳥取市歴史博物館やまびこ館（鳥取市上町 88）地下 1 階研修室
- (3)内容 鳥取軍政部活動報告の英文解説と解説
- (4)人数 毎回 15 名程度（随時参加可能）

参考：

軍政部活動月報（至 1947 年 11 月 30 日）

添付書類 E「民間情報教育活動」 1.教育活動 g 天皇行幸

昭和 22 年 11 月 27 日の天皇行幸の奉迎場（公設グラウンド、現：県立博物館敷地）の清掃活動に、鳥取市内の小学生数百名が動員されたところ、GHQ 軍政部は、教育目的以外の児童の労働力の不当な利用だとして、これを中止した。

The Emperor's Visit – In connection with schools and school children, the Emperor's visit brought about a few problems, primarily the use of student labor in preparation for his visit and the bringing of children in school groups to see the Emperor. At the request of Tottori City officials who were anxious to improve the city's appearance for this special occasion, the principals of six local primary schools agreed to "use" their students to clean up the parade grounds where the Tenno was scheduled to appear. On the afternoon of 14 November, several hundred children began working at this task, under the directions of a few teachers. Because this seemed a definite throwback to the feudalistic use of student labor for non-educational purposes so common during the war years, the CI&E Officer advised that the work should be suspended and that students should do no work except the cleaning of school building and grounds. Schools in the area to be visited by the Emperor declared holidays so that children could attend the event on their own initiative or with their families rather than in school groups. Such practices as lining up all the children of a school and making them bow deeply until the Emperor passed were not observed.